

呼酒、酒カサ陶潛詩序儀狄造酒、杜沙サ嬉シ則酒也、出ニ十ト旬ト酒ノ之ノ異ニ、神酒キ、三ト寸ト酒ノ一名、蓋領酒者去ニ、
 左傳、青州カシノ從事シ原ニ督ト郵ト事ト出ニ晉ニ書ニ事ト文ト、

〔重修本草綱目啓蒙十七〕酒ノサケ一名玄水本草、百藥長法言、醞物事林廣記、海老同上、狂藥

故事、軟飽檢蠶、陸諤事、醇儒、懿侯、醴泉侯、麴生、麴秀才、麴米春、麴道士、麴君

白眉、瑞露、歡伯、桑郎、索郎、吳醴、楚瀝、蘭生、玉薤、富水、九醞、九醇、十旬、燒春

石凍春、土窟春、羅浮春、梨花春、花春、拋青春、秋露白、掃愁帚、釣詩鈎、般若湯、軟

口湯、願建康、杜康、白墮、青州從事、平原督郵、洞庭春色、上天美祿、眞一先生、祛愁

使者、破悶將軍同上、

〔物類稱呼四〕酒ノさけ 出羽にていさみと云、和州大峯にてごまのはいと云、今按にいさみとい

ふは羽州羽黒山などの行者の隠語なるべきを、俗人もそれに倣ひて、專いさみといふ事にや成

けんごまのはいといへるも是にをなじかるべし、又畿内の番匠の詞に間水といふ今はけづり

ともいふ、江戸にても番匠はけづりと云中、又西國にてけんすいと云は、灸治する節酒食を饗

するをいふ、江戸にて參州酒などの味辛つよき酒を鬼ころしと云、如此の類を美作にてやれい

た酒と云、野州日光にて鬼ごのみといふ、又駿河邊にてはてつべんといふなり、

〔海人藻芥〕マナ初メ、袴著、元服、移徒以下、祝ノ酒肴ハ必ズ三獻ト云々、如何ニモ時刻延ザルヤウニ

取沙汰スル也、凡酒無量不及亂云々、雖然後光嚴院御愛酒ニテ御座ケル程ニ、常ニ御酒宴有テ、數

獻ニ及ト云々、其御代ヨリ獻數加増シテ、或ハ五獻、七獻、九獻マデ被聞召タリ、近比ハ酒ノ名ヲ九

獻トゾ申合ケル中、

内裏仙洞ニハ一切ノ食物ニ異名ヲ付テ被召事也、一向不存知者、當座ニ迷惑スベキ者哉、

飯ヲ供御酒ハ九獻中、如此異名ヲ被付、近比ハ將軍家ニモ女房達皆異名ヲ申スト云々、